

MCN REPORT

新型コロナウイルス感染防止対策を
行い学内での実習が始まりました

Vol.45
2020.11



伊賀市立上野総合市民病院と連携協力協定を結びました(5ページ)



学内での実習の様子(1ページ)

主な内容

後期・学内の実習が始まりました	1
大学の出来事	2
教員インタビュー	3
大学院の紹介	4
連携協力協定について	5
連携協力協定病院紹介(伊賀市立上野総合市民病院)	6



後期・学内の実習が始まりました

新型コロナウイルス感染症対策により初めて学内で実習を行いました

9月7日から、他の学年に先がけて2年生の基礎看護学実習Ⅱを開始しました。今年度は、新型コロナウイルスの感染防止対策として県内医療機関での実習を中止し、学内での実習を行いました。また、3年生で実施する領域別看護学実習では、一部の領域を除き、学内での実習に切り替えて行っています。

学内での実習の実施は初めてですが、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、様々な工夫を凝らし実習を行っています。



事前説明の様子



モデル人形に触診する様子



学生が看護師役・患者役になり対応を学ぶ様子



注意点について説明を受ける様子



患者への対応について教員からアドバイスを受ける学生



モデル人形を使用し、学内実習を行う様子

県内病院等看護管理者意見交換会

9月30日(水)

地域に貢献する看護職者の育成と県内看護職者の支援を担う本学が、地域の医療機関のニーズを把握し連携を一層深めるため、看護管理者意見交換会を毎年開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、オンラインにより県内30の病院・訪問看護ステーションの管理者の皆さまにご参加いただきました。

県医療保健部医療政策総括監田辺正樹氏による「三重県における新型コロナウイルス感染症の現状と行政における対応」についてのご講演に始まり、本学からは新型コロナウイルス感染症による出校停止や実習中止を受けての学生の学習・生活状況、卒業生の就労・生活状況等について話題提供を行いました。また、実習受け入れ態勢の現況、今後の臨地実習のあり方、来年度以降の新卒看護師への対応等について意見交換を行いました。



修士論文の発表

8月26日(水)

令和2年度前期の修士論文発表会を行いました。前期の発表会は、新型コロナウイルス感染症の影響により例年より約1か月遅れての開催となりました。

発表会では、本学の教員で大学院に在籍する山本 翔太さんより、介護離職を経験した男性介護者の介護役割の自己認識に性役割がどのように影響を与えているかを、主に県内に在住する複数の対象者に実施したインタビューのデータ分析を行い明らかにした研究について発表がなされました。

当日は感染予防対策をしたうえで、教員と大学院生が参加し多くの意見や質問がありました。



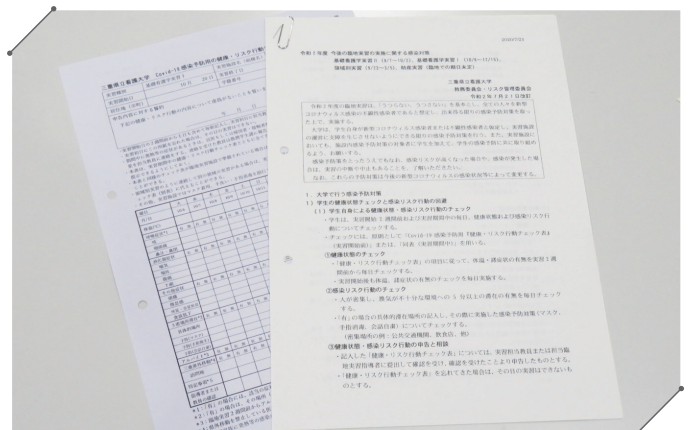
基礎看護学実習Ⅰ事前説明会

10月5日(月)

大学に入学して初めての实習となる「基礎看護学実習Ⅰ」では、基礎看護学の教員より1年生に向けて、10月13日(火)から始まる実習の事前説明を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実習開始前に実習に取り組む心構えや、実習を行う際の注意点などを詳しく説明しました。

初めての実習を前に、1年生は緊張した面持ちで教員からの説明を聞いていました。



教員インタビュー

山本 翔太さん(在宅・公衆衛生看護学)に聞きました

本学の教員として勤務しながら、9月30日に本学大学院を修了された山本さんに、働きながらの大学院生活についてリアルな声を伺いました。

Q1 山本さんの経歴について教えてください。

本学の卒業生である私は、日本赤十字社伊勢赤十字病院で3年間看護師として勤務していました。その後、母校の教員として採用され現在に至ります。

Q2 看護師から教員になろうと思ったきっかけを教えてください。

きっかけは、主に看護師として病院で勤めていた時の経験や、学部生時代の学びです。病院で勤務していた頃は、後輩の指導に携わる中で、教育に関心を抱くようになりました。また、学部生の頃から卒業研究を通じて、研究にも関心を抱いていました。これらのことを通じ、私は教員になろうと思いました。

Q3 大学院に入学しようと思われたきっかけを教えてください。

学部生時代に経験した卒業研究がきっかけです。私は卒業研究を通じて、研究の意義や、得られた結果を協力者の方々や看護分野に還元することの重要性を学びました。また、研究疑問を少しずつ明らかにしていくという過程にも興味深さを感じていました。そして、大学院で研究に関する学びをさらに深めていきたいと考え、大学院に入学しようと思いました。

Q4 大学院で学んだことは？

大学院ではじっくり時間をかけて、研究に向き合うことができましたので、研究に関する技法や研究に取り組む姿勢などたくさんを学びました。また、一連の研究過程を学ぶ中で、私自身の思考過程を客観的に理解することができ、貴重な学びとなりました。

Q5 仕事をしながらの大学院生生活。大変でしたか？

正直に言いますと、大変なこともありました。その日の勤務を終えた後は、大学院の講義で課された課題に取り組むという生活を送っていたので、大変だと感じることはありました。しかし、先生方をはじめ、大学院の同級生や私を支えてくださる方々のサポートがありましたので、大変だと感じつつも、充実した日々を送ることができました。

Q6 最後に、今後の目標を教えてください。

今後の目標は、大学院で得た学びを教員として、教育や研究に活かしていくことです。今後は、担当させていただく講義や卒業研究等を通じて、学生の皆さんと関わる機会が多くなります。そのため、より分かりやすい教育方法を模索しながら、教員として成長していきたいと考えています。また、大学院で取り組んだ研究をさらに発展させ、新たな研究に取り組んでいくことも目標としています。



在宅・公衆衛生看護学 山本翔太助教



修了証書授与



修了証書授与式後の一枚

大学院の紹介

【本学大学院について】

看護のあらゆる面において高度化、複雑化、専門化が進む中で、質の高い看護を提供していくために、科学的根拠に基づく看護技術の開発や看護に関する高度で多角的な教育・研究・実務の知識と手法の確立をめざして、平成13年度に大学院看護学研究科(修士課程)を設置しました。本学大学院は、看護職者の養成や再教育を担う人材、卓越した看護実践能力を有する人材を育成することで、保健・医療・福祉のさらなる向上に寄与します。

【本学大学院の特徴について】

本学大学院は、13の教育研究分野を設けています。

様々な看護上の課題について探求する修士論文コースでは13分野、臨地における看護教育者を育成する臨地教育者コースでは9分野、高い専門性と優れた看護実践能力を有する看護職者を育成する専門看護師(CNS)コースでは3分野からと、幅広い選択肢から目的に応じて学ぶことができます。

また、就業しながら大学院へ通う方などのため、「教育方法の特例(14条特例)」と「長期履修制度」を導入しています。さらに、遠隔地から通学する学生への受講の配慮と感染症リスク回避の観点から、講義のオンライン化を検討しています。

教育研究分野	修士論文コース	臨地教育者コース	専門看護師(CNS)コース
人文社会看護学	○		
自然科学看護学	○		
実践基盤看護学	○	○	
看護教育学	○		
看護管理学	○		
母性看護学	○	○	○
小児看護学	○	○	
成人急性期看護学	○	○	
成人慢性期看護学	○	○	
老年看護学	○	○	○
精神看護学	○	○	○
在宅看護学	○	○	
公衆衛生看護学	○	○	



三重県立看護大学院の外観



法人化記念植樹「みえ紀南1号」の収穫を行いました



平成21年4月の法人化を記念して、正門から続くアプローチに植樹された極早生温州みかん「みえ紀南1号」の収穫作業を11月9日(月)に行いました。当日は登校してきた学生も飛び入り参加し、一つひとつ大切に収穫をしていました。

今年は、天候不良等によりみかんが実るか心配されましたが、無事に収穫することができました。



たくさん実をつけたみかんの木



青空の下、学生も収穫しました。



令和元年度卒業記念植樹も元気に育っています。

連携協力協定について

伊賀市立上野総合市民病院と連携協力協定を結びました

令和2年8月27日、本学と伊賀市立上野総合市民病院は、臨床能力に優れた質の高い看護職者の教育・育成について連携協力を図るために協定を締結しました。当初は昨年度末での締結を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、締結時期を延期していました。今回、新型コロナウイルス感染防止対策を十分に行い、無事に締結にいたりました。本学における病院との連携協力協定の締結は12病院目となります。

協定では、病院職員の教育・研修の場への本学教員の派遣による支援や、教員の臨床能力の向上を図るための病院への研修派遣、各種セミナー・シンポジウムの共催や共同研究の推進など、新たな取組を行っていくこととしています。

今回の協定締結により双方の教育・研究の質が一層向上することが期待されます。



連携協力協定について

本学では、臨床現場における学生と看護職者の資質の向上を目的に県内医療機関と相互に連携・協力関係を構築しています。急速に高度化、多様化する医療ニーズに的確に対応できる質の高い看護職者の育成が求められる中、附属病院を持たない本学では、学生の臨床能力を養成するために優れた医療機関との連携が不可欠です。

また本学では、県内医療機関の看護職者に対する教育・研修等の支援や、大学院教育の提供等に取り組んでおり、看護職者の育成・教育、能力向上に貢献できると考えています。

これらを通じ、県民の皆さまの充実した医療サービスにつなげていきたいと考えています。

〈病院にとってのメリット〉

- 病院職員の教育・研修等への支援
- 病院職員に対する大学院教育の提供等
- 実習指導者の資質向上への援助
- 病院の看護職者教育への支援
- 病院への大学教員の派遣
- 図書や備品等の貸し出し等における優遇措置

〈大学にとってのメリット〉

- 看護学生および大学院生の臨地実習の受入れ
- 大学教員の臨床能力の向上を図るための研修の受入れ
- 「看護師教育の結果および成果」を大学教員の研究へデータ提供
- 人事交流により、病院の看護職者を看護大学の教員として派遣
- 研究のための各種資料・データの提供

〈大学・病院 双方のメリット〉

- 大学教員と病院職員による共同研究の推進
- 公開講座や各種セミナー、シンポジウム等の共催



連携協力協定病院紹介

連携協力協定病院のご紹介 ～伊賀市立上野総合市民病院～

手で触れて、みて、考える看護の実践 “看護の基本に忠実で、 心のこもった看護を提供をします”

伊賀市は三重県の北西部に位置し、豊かな自然や歴史・文化に恵まれた環境にあり、伊賀忍者発祥の地でも知られています。この地にある当院は三重県の西部地域の基幹病院として、全人的医療を提供し、広く市民に信頼される病院をめざしています。急性期病棟194床と地域包括ケア病棟40床があり、急性期治療を終えた後も在宅療養へ向かう患者を受け入れ復帰をサポートしています。また、訪問看護ステーションでは、退院前に同行訪問をし、退院後スムーズに療養ができるように支援しています。

看護部は、身体のみならず、心の痛みにも触れて、みて、考えて看護実践ができる看護師の育成を目標に看護教育に力を入れています。経年別教育を実施し、入職1年目から5年目までの支援チームで、個々のスタッフの成長を確認できる体制を取っています。キャリアアップ充実のため資格取得に向けた支援もしています。質の高い看護の提供をするためにも、三重県立看護大学が主催する研修に参加し、大学から派遣された実習生の受け入れを行ってきました。今後更に多様化し続ける医療のニーズに対応できる看護師育成ができるように、これからも三重県立看護大学と看護師教育・育成、人事交流などの連携を図っていきたくと考えます。

(看護部長 中井 より子)



伊賀市立上野総合市民病院



新人多重課題の演習の様子

病院情報

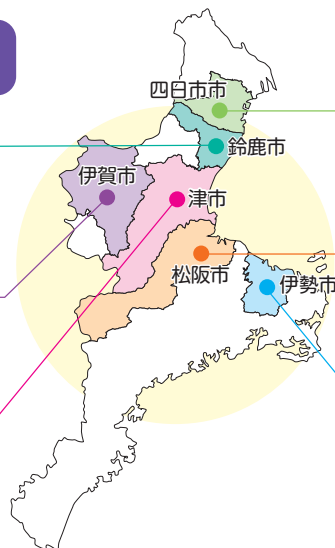
伊賀市立上野総合市民病院〔昭和31年6月1日開設〕

- ❖ 病床数：一般281床（うち地域包括ケア病床40床）
- ❖ 診療科目：内科・外科・乳腺外科・消化器肝臓内科・循環器内科・腫瘍内科・脳神経内科・もの忘れ外来・脳神経外科・泌尿器科・婦人科・耳鼻咽喉科・皮膚科・眼科・肝胆脾外科・大腸肛門科・小児科・整形外科・ギブス外来・救急科・緩和外来・心臓血管外科・腎臓内科（計24科）
- ❖ 職員数：343名（うち看護師163名）（令和2年10月1日現在）

連携協力協定病院一覧

県内12病院

- 三重県厚生農業協同組合連合会 鈴鹿中央総合病院
- 社会医療法人畿内会 岡波総合病院
- 伊賀市立上野総合市民病院
- 三重県立こころの医療センター
- 独立行政法人国立病院機構 三重病院
- 三重県立一志病院
- 地方独立行政法人 三重県立総合医療センター
- 松阪市民病院
- 社会福祉法人恩賜財団 済生会松阪総合病院
- 三重県厚生農業協同組合連合会 松阪中央総合病院
- 日本赤十字社 伊勢赤十字病院
- 市立伊勢総合病院



(令和2年11月末日現在)

さらなる発展と人材育成の充実に向けて

～学生の修学支援のための基金への寄附のお願い～

本学では、開学20周年(平成29年)を契機として学生の修学支援に活用するため多くの皆さまの寄附を原資とする「**公立大学法人三重県立看護大学修学支援基金**」を創設しました。

この基金は「**みかん大進学支援給付金**」の財源として、三重県の保健・医療に貢献する意欲があり、本学への進学の目的及び意志が明確であるにもかかわらず、経済的理由により進学が困難な人への入学時の給付金に充当しています。

さらに、今年度、新型コロナウイルス感染症により経済的に困窮している学生を支援するため、この基金を充当して、「**生活支援給付金**」(休学者を除く全学部生を対象に大学生協で書籍の購入や大学食堂に活用できる資金を一律給付)、「**緊急支援一時貸付金**」(一時的な困窮者への無利子貸付金)を臨時的に創設、運用しました。

■皆さまへのお願い■

基金創設時には多くの皆さまからご厚志を賜りましたが、継続的かつ機動的に、安定した学生への支援を可能とするため、引き続き、皆さまからの寄附を賜りますようお願い申し上げます。

■寄附にあたってのお得なお知らせ■

本寄附金は、総務大臣及び文部科学大臣の承認を得て、所得税の税額控除の対象となりました。詳細は事務局にお問い合わせください。(対象:平成31年1月～令和5年12月寄附分)

■令和2年11月末の基金の状況■

基金残高 4,702,000円
寄附者数(累計) 個人 66人
法人・組織 14団体

お問い合わせ

寄附に関すること:事務局財務・運営課
給付金に関すること:事務局教務学生課



公立大学法人
三重県立看護大学

〒514-0116

三重県津市夢が丘一丁目1番地1

TEL 059-233-5600(代)

FAX 059-233-5666

<http://www.mcn.ac.jp/>



本学マスコットキャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大(みかんだい)」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されています。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。

広告



近鉄津新町駅より
徒歩約6分



(財)日本医療機能評価機構・認定病院
☎(059)228-5181

広告

私たちがめざすのは
いのちとこころを救う看護です



地方独立行政法人
三重県立総合医療センター 看護部
四日市市日永5450-132 TEL059-345-2321(代表)
e-mail:sogohos@mie-gmc.jp <http://www.mie-gmc.jp>